

「第2回吉野作造研究賞」受賞者決定!

「第2回吉野作造研究賞」では二〇〇八年の吉野作造生誕一二〇年没後七十五年記念論文募集事業に続き、吉野作造研究の更なる発展を目的として「吉野作造の思想ならびに業績」をテーマに論文を募集しました。

二〇〇九年六月、全国の大学および所属の研究所、歴史学会、博物館、図書館などにご協力いただき呼びかけるとともに、ホームページ上にて募集を開始しました。審査には前回と同じく、太田雅夫氏（元桃山学院大学教育研究所教授、同研究所所長）、祇園寺則夫氏（小山高等専門学校名誉教授）、そして当館館長田中昌亮の二名があたりました。第一次審査は二〇〇九年十一月三十日までに論文要約を提出する形式で行われ、国内外から十七編の応募がありました。第二次審査は二〇一〇年六月三十日締め切りで本論文を提出してもらい、八編の応募の中から審査の結果、最優秀賞一編と優秀賞二編が八月に決定しました。十一月十三日には受賞者の方々を古川にお招きし、表彰式ならびに最優秀賞受賞者講演を行いました。

《最優秀賞》

「吉野作造における

「婦人」解放論」

齋藤由佳

（名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期課程・富山県在住）

吉野作造が『婦人公論』をはじめとする「婦人」雑誌や総合雑誌等に「婦人問題」として寄稿した論考をもとにこれまで論及されることのなかった、吉野作造の婦人解放論の内容とその特徴を説明しようとしている。

その際、吉野の婦人解放論を知る手立てとして同時代の生物学者・山本宣治と比較をしている。

山本は無産階級を対象に産

児調節にかかわる思想と運動を展開し、科学的な性知識の啓蒙と性意識の変革が社会問題解決への根本だと考えた。このような山本の立場と照らして、論壇での吉野の主張および賛育会病院、家庭購買組合、法律相談所等での活動に見られる吉野作造の婦人問題への理解度や婦人解放論を論じている。



齋藤由佳氏による最優秀賞受賞者講演

《優秀賞》

「二つの中国認識

—吉野作造と内藤湖南—

朱琳

（東京大学大学院法学政治学研究科博士課程・東京都在住）

大正時代において、中国をよく理解している知識人の代表であった政治学者吉野作造と、歴史学者内藤湖南の中国認識の差異を考察した論文である。

二人は辛亥革命や対華二十一条要求、五四運動、「満州」問題など中国で発生した政治的重大事件に対して対照的な中国観を展開する。

比較することによって個人の思想研究では見えてこない

視点を明らかにしようと試みた論文である。

《優秀賞》

「吉野作造と朝鮮問題

—日韓併合から三・一独立運動

までを中心として—

中村敏

（新潟聖書学院院長・新潟県在住）

進歩的知識人が「内政においては立憲主義、外政においては帝国主義」を主張した大正期に、吉野作造は「内政においては民本主義の徹底、外政においては国際的平等主義の確立」を目指し、朝鮮・中国の独立運動の支援に結びついていった。

このような吉野の言動にはキリスト教信仰が深く関わっていたとし、朝鮮総督府の同化政策や日本組合教会の植民



第2回吉野作造研究賞 表彰式 最優秀賞受賞者記念講演

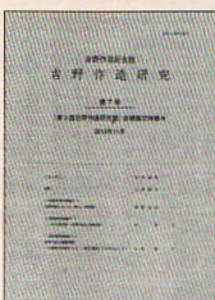
左から田中昌亮、祇園寺則夫氏、太田雅夫氏、齋藤由佳氏、朱琳氏、中村敏氏

～刊行物のご案内～

『吉野作造研究』第7号 頒価1,000円

「第2回吉野作造研究賞」受賞論文特集号として『吉野作造研究』第7号を発刊しました。受賞者の方々の論文をぜひお手にとってご覧下さい。

※郵送での購入を希望される方は当館までお問い合わせ願います。



地伝道への批判など、日韓併合から三・一独立運動までを中心とした朝鮮問題に関する吉野の主張をキリスト教者としての立場をふまえて考察している。